Ⅳ－240

海外旅行目的地の魅力度に関する研究

○名古屋工業大学　学生員　有友　圭一
名古屋工業大学　正　員　松井　　寛
名古屋工業大学　正　員　藤田　素弘

1　はじめに

わが国からの海外旅行者数は年々増加し、同時にその観光旅行目的地も、多様性を増し続けている。本研究では、年齢・性別により様々であろう海外観光旅行における「魅力」という漠然としたものを数量化して、分析しようと試みたものである。

2　わが国からの海外観光旅行者数

平成3年における出国日本人は、総数10633777人(男性:6489829人、女性:4143948人)であり、その性別構成比は、男性:61.0%、女性:39.0%となり、女性の占める割合いは年々増加している。また、渡航先を地域別にみると、アジアが全体の47.8%を占め、次いで北アメリカ35.5%、ヨーロッパ10.3%となっており、この3地域で全体の93.6%を占めていることになる。渡航先では、アメリカ（ハワイ、グアム、サイパンを含む）の33.5%が最も多く、次いで韓国12.9%、香港8.8%、台湾7.2%となっており、この順位は前年と変わりはない。

3　重力モデルによる魅力度の算定

まず、わが国からj国への海外渡航者数は、わが国からj国までの交通費(*flight fee*)と、j国の魅力(*fascination*)によって表現されるものと仮定し、重力モデルを利用するとj国の魅力度は以下の式(1)(2)より算定される。

$$T_j = \alpha \sum_{k=1}^{N} T_k F_j C_j^{-\gamma} \qquad (1)$$

$$\therefore \quad F_j = \frac{T_j}{\alpha \sum_{k}^{N} T_k C_j^{-\gamma}} \qquad (2)$$

しかしFjそのものの値に意味はなく、何らかの基準かをするために(3)の制約条件を設けた。

表 1

C_{ij}	わが国からj国までの交通費
T_{ij}	わが国からj国への各年齢別旅行者数
F_j	各年齢性別におけるj国の魅力度
N	今回研究の対象として取り上げた国の数
α,γ	パラメータ

$$\sum_{k}^{N} F_k = N \qquad (3)$$

未知数γを選択する際には、C_jと$T_j/\sum T_k$との相関係数を最大にする値を各年齢・性別ごとに用いた。また、今回研究対象とした目的地は、わが国の旅行者が最もよく訪れる国を上位14ヶ国選んだ。

以上により算定した各国の魅力度をグラフに表したのが図1である。なお、本研究ではこの魅力度を各年齢・性別ごとに算定した。

4　魅力の構成

(1) アンケートに基づく各国のイメージ

ここでは以上より算定された各国の魅力度をもとにして、国際観光旅行における魅力の構成要素を解きあかそうと試みた。そこで、観光旅行の目的地としての魅力に、影響を与えると考えられる以下の指標を取り

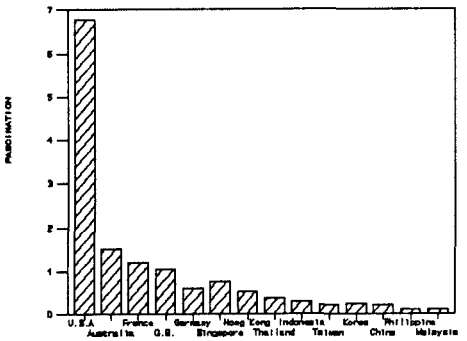

図 1　　fascination of each country

上げ、270人（男性:167人、女性:103人）を対象に、観光地としての各国に対する意識調査を行った(表２)。

表 2

x_1	美しい自然景観を見るのに適しているか。
x_2	グルメ、ショッピングを楽しむのに適しているか。
x_3	史跡、文化財、博物館、美術館などを鑑賞するのに適しているか。
x_4	のんびりとくつろぐのに適してるか。
x_5	スポーツ、レクリエーション活動を楽しむのに適しているか。
x_6	旅行中、言葉に不自由すると思うか。
x_7	治安、衛生に不安を感じるか。

以上の指標に対し、当てはまると感じた場合得点を1、特に当てはまると感じた場合得点を2とし、さらにその集計結果をサンプル数で割り得点の平均化を行った。

(2) 魅力度を目的変数とした重回帰分析

(1)により得られたX1..X7の得点と、さらに指標X8としてVISAの要不要をつけ加えたX1..X8の得点を説明変数として、各年齢・性別ごとに重回帰分析を行った。その際に、指標X1（美しい自然景観を見るのに適している）は、指標X4（のんびりとくつろぐのに適している）、指標X5（スポーツ、レクリエーション活動を楽しむのに適している）とは、ともに相関性が極めて高かったので、このモデルの作成から除外することにした。

(3) 魅力を構成する各指標の重み

(2)での重回帰分析で得られた結果の、標準化偏回帰係数(standard pertial regression coefficient)着目することにより、それぞれの指標の魅力に与える影響力（重み）を知ることができる。(図2)例えば、魅力度の要素として最もPOSITIVEなものは、指標X5（スポーツ、レクリエーション活動を楽しむのに適している）であり、NEGATIVEなものとしては、指標X4（のんびりとくつろぐのに適している）、指標X6（旅行中、言葉に不自由すると思う）、指標X7（治安や衛生状態に不安を感じる）、指標X8（査証が必要であること）等が挙げられる。また、本研究においては各年齢性別ごとに重回帰分析を行ったが、特に顕著な差異は見られなかった。

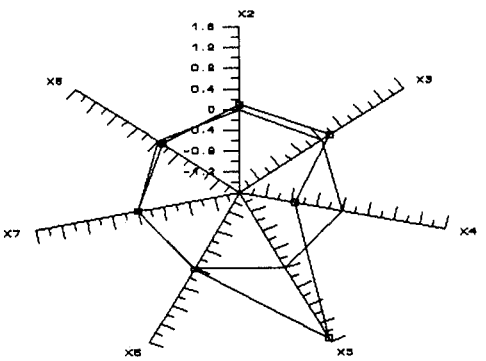

図 2

standard percial regression coefficient

5 まとめ

以上より、これまで漠然と認識されていた「魅力」というものの実態を、具体的に把握することができた。今日では、大多数の国々で観光は欠かすことのできない外貨獲得源となっており、この傾向は今後も増していくものと考えられる。したがって、本研究の成果は将来他国がわが国の観光旅行者を積極的に誘致するための指南となり得るであろう。